

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスよつば		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 3月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～ 2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの多様多様さ・体験活動の豊富さ	毎月、活動カレンダーの立案を事業所職員全体で行い。時期ごとや各曜日の利用児童ごとなどに重なりがなるべく無いように調整できている。また活動内容についても、毎月必ず、これまでに取組んだことのない新しい種類の活動を加えた内容にできている。土曜日以外の平日でも、限られた時間の中で特別な体験を提供できている。	体験活動の幅を広げるため、教育機関や民間事業者などの種類を問わず、活動に協力していただける関係先を増やしたり、新たな視点で、子どもたちと地域や社会との接点を増やせるよう開拓していけると尚良いと感じる。
2	職員の人数や配置などにより、児童ごとの細かな行動に対する配慮が行き届くようにできている点	職員の半数以上が、保育園での勤務経験が長く、幼児の対応に慣れた職員が常に子どもたちの対応にあたることができている。利用児童が安心し、心から楽しめる・興味が湧くような対応を心掛けることができている。	事業所や職員の側のイレギュラーがあった場合や、緊急を要するような場面が発生した際などでも、問題なく安心・安全を担保できるだけの体制に強化していきたい。
3	地域との関わり	初年度のハロウィーンイベント企画では、事業所のある通りの、眼鏡店や郵便局、他のデイサービス、携帯ショップ等の様々な商店や事業者を子どもたちと共に回り、交流を持つ機会を作ることができた。	時季に応じたイベントを企画したり、形を変えて、地域の方々に事業所にお越しいただくなど、活動を知っていただく機会を設けることができれば、より地域に根差した交流につなげることができると感じる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者評価について	開所から間もないこともあり、まずは事業所内での業務スキームの構築や、確認・共有を主に行ってきた。今後、自分たちで構築した取り組みや流れを、外部からの目で評価を受ける機会を設けることも検討していきたい。	まずは、一つ一つの対応や業務における、事業所としての形を確立することに力を注ぎ、その後に第三者期間の選定や、外部研修を通じた多面的な評価を取り入れる準備をしていきたい。
2	切れ目のない支援	未就学児について、小学校と比較すると、通っている幼稚園や保育園との状況共有の量がまだ少なく具体的な関係構築が着手できていない関係がある。	今後、気になる児童などがいた場合には、関係機関としてその児童が過去に通った施設との連絡や情報共有を行って、実際の対応に活かせるよう努めたい。
3	家庭への支援	実際の活動を目にしたたり、保護者にとっての学びや交流の場になるような機会の提供ができていない。	実際の子どもたちの活動を保護者の皆様に見ていただいたり、家庭での様子との違いなどから、保護者向けの研修の機会などに繋げていきたい。